YCAMサウンドアートシリーズ　sound tectonics installation #2

渋谷慶一郎 + evala　新作サウンドインスタレーション
「 for maria installation version 」

2009年10月1日(木) – 2010年6月6日(日)　10:00 – 20:00

山口情報芸術センター[YCAM]　中庭A・B　入場無料

YCAMの中庭に響くサウンドインスタレーション
ここでしか味わえないピアノサウンドによる空間

YCAMの憩いの場として親しまれる中庭（写真）で、メディアテクノロジーを駆使したサウンドアートの作品を制作／発表するシリーズ「sound tectonics installation（サウンド・テクトニクス・インスタレーション）」。

今回は、ピアノ音源を用いた新作のサウンドインスタレーションが、登場します。

コンピュータによって、音楽に空間的な広がりや移動をもたせた、普段はなかなか体感することのできない音響表現。本展では、来訪者にとって身近な中庭で、高品位の技術で録音されたピアノ音源をベースにした最新作をご紹介します。ピアノの音色が、多様な空間表現へと展開される本作を通じ、サウンドアートの魅力を発見してください。

※開催期間を1月31日(日)までと告知しておりましたが、ご好評につきまして会期を延長いたしました。

主催：財団法人山口市文化振興財団
後援：山口市、山口市教育委員会
協力：ATAK　技術協力：YCAM InterLab
企画制作：山口情報芸術センター[YCAM]

ぜひこの機会に、取材や記事掲載ご協力いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

お問い合わせ　山口情報芸術センター[YCAM]　広報担当：廣田、辰村
TEL：083-901-2222　FAX：083-901-2216　e-mail：information@ycam.jp
〒753-0075 山口県山口市中園町7-7　http://www.ycam.jp
取材に関するお問い合わせ、プレス用写真等ご入用の方は上記までご連絡ください。

YCAMサウンドアートシリーズ「sound tectonics installation」

独自性としてのサウンドアート。新たな表現と技術を探求するYCAM

YCAMでは開館当初より、電子音響による表現を独自の方向性のひとつとして探求しています。メディア技術を用いた表現において、映像などのビジュアル表現だけでなくサウンドについても重要視することで、これまでの美術にはなかった聴覚によって感じることのできる空間性や時間性を発見することができます。さらに、人間の視覚、聴覚、触覚といったあらゆる知覚を、等価値でとらえなおし、そこから生まれる新たな表現の可能性を追求しています。

なかでも、YCAMのホワイエに位置し、ガラスの吹き抜けが心地よい佇まいを作りだす「中庭」には、5.1チャンネルのサウンドシステムが敷設されており、足下からわき出してくるような聴覚体験が可能です。

サウンドアートを日常のなかで鑑賞できるYCAMならではの施設である、この中庭をプロデュースするシリーズが、「sound tectonics installation（サウンド・テクトニクス・インスタレーション）」です。

アーティストの表現に触れ、より多様な芸術体験や表現の可能性を開いていく「場」として、YCAMでは、このシリーズにて委嘱作品を制作／発表しています。

YCAM中庭でのサウンドアート委嘱作品シリーズ「sound tectonics installation」

#1. テイラー・デュプリー＋クリストファー・ウィリッツ「リスニング・ガーデン」(2004)

これまでに展示・公開したYCAM中庭でのサウンドインスタレーション作品

■毛利悠子＋三原聡一郎「Vexations - Composition in Progress」（「時間旅行」展、2005）
■exonemo「REAL SPACE IN VEDA」（展覧会「WORLD B」、2006）
■YCAM 大学間コンソーシアム「公共空間とサウンド“autonomic sound sphere - 自鳴する空間”」(2006)
■坂本龍一　「nakaniwa」(2007)
■池田亮司　「untitled #1」「untitled #2」(2008)
■大友良英＋青山泰知「without records」（展覧会「大友良英/ENSEMBLE」、2008）

新作サウンドインスタレーション「for maria installation version」

加工／解体／再構成〜空間に充満するピアノ

今回の展示は、音楽家の渋谷慶一郎によって作曲・演奏された完全ピアノソロによる最新アルバム「ATAK015 for maria」のサウンド・データの全て（全曲トラック）を素材とし、コンピュータプログラムによって加工／解体／再構成を反復させながら、各楽曲間相互に新たな関係やレイヤーを引き直すことで、CDとは異なった全く新しい音響が生成され続けるサウンドインスタレーション作品です。

会場となる2つの中庭は、天井までの高い壁（ホリゾント）による特殊な音響効果で知られ、地下に設置された5.1チャンネルのスピーカーからは多彩な音源が再生されます。中庭は、それぞれ異なる建築構造と空間的音響特性を持っており、本作では異なったプログラミングが施された音がインストールされます。渋谷とサウンド・アーティストのevalaとの共同作業によりプログラミングされるその音像は、立体的な移動を伴い、音響的レイヤーと音響空間は不断に更新され続けます。

CDの128倍の解像度を持つDSDレコーディングによって精緻に録音された渋谷自身 のピアノ演奏の断片が、コンピュータプログラムによって加工・解体され、レイヤードされた音像が立体的な移動を伴い空間構成を生成していきます。元の音源が、一般的なフィールドレコーディングやコンピュータミュージックで使用されるものとは別次元の解像度を持っているため、そのプロセスは、空間に充満する音響が、煙のような有機性を伴い無限の変化を反復するよう巧妙に設計されています。空間的な可能性を開いていくために、コンピュータプログラムによって、同じ音源とは思えないほど複雑多岐に展開されるため、来場者は常に新しい音楽と音響に出会えるようになっています。

中庭の中を移動するサウンドを聴きながら、鑑賞者はここの空間でしか体験することができないサウンドスケープを体感することができます。

渋谷慶一郎＋evala

実験的かつハイクオリティなリリースが世界的に注目を集めるレーベルATAKを牽引する存在である渋谷慶一郎とevala。複雑系研究者の池上高志（東京大学教授）との第三項音楽プロジェクトを提唱し、コンピュータミュージックの最先端を担っています。2006年には、YCAM滞在制作による立体音響インスタレーション「filmachine」を発表。この作品は、アルス・エレクトロニカ、デジタル・ミュージック部門でHonorary mentionを受賞し、その後ベルリンにて巡回展示もおこなっています。2009年には、ライブイベント「ATAK NIGHT4」のワールドツアーを展開するなど、その活動は国際的に注目され、影響力を広げ続けています。

今回、YCAMで発表する新作は、彼らにとって初めてのピアノを素材としたサウンドインスタレーションで、ビジュアルを伴わない5.1チャンネルによる完全にサウンドのみで構成される作品となります。

渋谷慶一郎＋池上高志「filmachine」（2006）

開催概要

YCAMサウンドアートシリーズ
sound tectonics installation #2

渋谷慶一郎 + evala

新作サウンド インスタレーション
「 for maria installation version 」

2009年10月1日(木) – 2010年6月6日(日)
10:00–20:00　※好評につき会期を延長いたしました。
※10月26日(月) -11月6日(金) は、展覧会のみ臨時閉場いたします。

山口情報芸術センター[YCAM]　中庭A・B
入場無料

photo: Kenshu Shintsubo

渋谷慶一郎　Keiichiro Shibuya　http://atak.jp

音楽家。東京芸術大学作曲科卒業。サイエンス・テクノロジーを駆使して電子音楽の分野では最先端を開拓し世界的に活動している。2002年にATAK設立。音楽レーベルとしてだけではなく、デザイン、WEB、映像など多様なクリエーターを擁し、精力的な活動を展開。2004年にリリースしたファースト・アルバム「ATAK000 keiichiro shibuya」は「電子音楽の歴史のすべてを統べる完璧な作品」と評された。2005年より複雑系研究者／東京大学教授の池上高志と非線形物理学の応用による「第三項音楽」を展開、その成果として2006年には三次元立体音響によるサウンド・インスタレーション"filmachine"を、2007年にはそのCDバージョンとして世界初のヘッドフォン専用・三次元立体音響CD"ATAK010 filmachine phonics"を発表。これらによって2007年度アルスエレクトロニカ・デジタルミュージック部門でHonorary mention受賞。2008年には世界最大のテクノロジーアートのフェスティバルであるトランスメディアーレ（ベルリン）でfilmachineを発表、コンサートも行う。2009年にはヨーロッパ、アジア数カ国から日本に渡るATAK NIGHT4ツアーをおこなう。2009年から2010年にかけてピアノ・ソロによるコンサートツアーが国内外で予定されている。

evala　http://port-label.jp

サウンドアーティスト。port主宰。ATAK所属。2004年にportを設立し、先鋭的な電子音楽作品を発表、国内外でのパフォーマンスを行うほか、多様な媒体のサウンドデザイン、またソニーをはじめとする最新テクノロジーを用いたプロダクトのシステムデザインなど数多くの仕事を手がける。2006年に発表した自身初のソロアルバム「initial」(port/2006)は、フィールドレコーディングされた音素材の人工的なプロセスによる加工/編集によって作り出された強靭かつ繊細なサウンドが "日本の最前線を担う音響作" と評され大きな話題を呼んだ。その他、東京大学や東京芸術大学での講義などもおこなう。
ブログ「hacking tone」(http://evala.org/ht/) が話題中。